

Chromebook を 10 日使って PC の危うい未来を確信

戸田 寛 = ビジネス書作家



(執筆時の情報に基づいており、現在では異なる場合があります)

日本でもいよいよ発売がスタートした Chromebook。当初は法人と教育市場向けへの限定販売だが、僕も会社に属しているので購入することができた。今回も辛口で長文レビューを進めていこう。製品自体のデキに加え、Chromebook の可能性やパソコンに与える影響も考えていく。

購入したのは、日本エイサーの「C720」で価格は 3 万 4521 円 (税込み) だった。この価格はあくまでも参考値で、同じ金額で入手できるとは限らないが、どちらにしろ Windows パソコンと比べると驚異的に安い。

さらに、Android タブレットの 10 インチモデルと比べてもいい勝負で、iPad mini よりも安い。だから驚かされる。果たしてこんな価格のパソコンが使い物になるのだろうか？ 実は結論は出ていて、「なる」のだ。すでに、米国ではノートパソコンの 2 割を Chromebook が占めているという。価格を考えれば妥協できるからこそ、ここまで売れているわけだ。ということで、何を妥協するべきなのかを考えつつ徹底レビューしていく。

まずは、製品のデキからチェックしていこう。本体は、ノートパソコンそのもので、Chrome のバッジが付いていなければ、Windows パソコンだと誰もが思うだろう。

製品の箱もパソコンそっくりだ。マニュアル類はないに等しく、しかも 1 枚の紙のマニュアルには多言語が印刷されているので、情報量は最小だ。コンシューマー向けに販売されるときには、もう少し説明をしっかりとしないと使いこなせないユーザーが多くなりそうだ。



箱はパソコンそっくりだ。

内容物は、本体と AC アダプターに紙数枚の説明書と保証書など。



説明書に書いてある情報はかなり少ない。しかも多言語対応になっている。

たたずまいは Windows パソコンと同様だ

本体のデザインや質感は、8万～10万円クラスのマイルノートといったところだ。高級感を感じられないが、ひどく安っぽいわけでもない。価格込みで考えるなら、大満足だろう。ただ、気に入って長く使いたくなるような、愛おしさはない。質実剛健のコスト重視で選ぶべき製品だ。

本体は樹脂性でパーツの点数が少なく、また飾りもほとんどない。ひたすら安く作るとうなる——といった見本のようだ。とはいえ、そこはパソコンを長年作り続けてきたノウハウが生きているので、最低限の見た目や使い勝手には配慮している。液晶パネルの開閉はしっかりしているし、限られた予算の中でも薄型化と、薄く見せるデザインを心がけていることがよく分かる。

液晶は11.6型と最近の携帯ノートとしてはかなり小さめだが、本体はやや大きく、1.25kgと重いのが欠点だ。一昔前の携帯ノートなら、1.25kgは文句なしの軽さだった。だが、Chromebookを買うユーザーは、とにかく気軽に選ぶはずだ。パソコンを持っている方が、2台目、3台目として買うケースも多くなるだろう。そんなときにも気軽さを重視してタブレット感覚で手に入れるはずだ。そう考えると、1.25kgは重すぎる。10型クラスのタブレット+外付けキーボードと同様の軽さであってほしいのだ。せめて1kgは切ってほしいところだ。



天板はツヤを抑えたガンメタリックで、仕事に使うには地味でよい。

たたずまいは、ちょっと昔のパソコンといった印象。



シボ加工された樹脂性の底面。仕上がりも、まあこの程度なら妥当だ。

13型の携帯ノートと比較すると、意外にサイズの差が少ないことが分かる。液晶の割にはボディーが大きいなのだ。

液晶はコストダウンの結果だ

液晶は、**11.6 型で解像度は 1366×768 ドット**だ。こちらも、一昔前には当たり前の解像度とサイズだったが、最近では、格下モデルの印象を持ってしまう。10~11 型の液晶でもフル HD は当たり前の時代なのだ。

ここも割り切って妥協するしかないだろう。メールを見たり Web をチェックする程度ならこの液晶でも十分だ。表面の仕上げがアンチグレアなので、映り込みが少なくて実用性は高い。

なお、海外で発売されている Acer の 13 型 Chromebook は、フル HD を用意しているようだ。だが、欲張ってスペックを積み上げていくと、どんどん価格が高くなってしまふ。果たしていくらまでなら適正なのかはよく考えて選びたいところだ。

Chromebook が安く売れるのは、タッチに対応していない点も大きいだろう。時代に逆行しているように思えるが、実はこれでいいという考え方にも納得できる。Windows 8 でもタッチを気に入って使っている人はさほど多くない。グーグルの場合、タッチ操作をしたいなら Android タブレットを選んでほしいというわけだろう。

液晶は解像度が低いものの、画質はさほど悪くないので十分普通に使える。



アンチグレアの液晶は、映り込みが少なく仕事向きだ。

拡張性は最低限だが困らない

拡張性は、携帯ノートと比べてもやや劣っている。USB 端子は 3.0 と 2.0 が 1 基ずつの合計 2 基だ。他には、HDMI 端子を搭載する。これでは周辺機器がつけなくて困るかと思いきや、まず不足することはないだろう。というのも、そもそもつなげる周辺機器自体が少ないからだ。いわゆるドライバーや専用ソフトを使う周辺機器は利用できないので、USB 端子につなげるのは、マウスと USB メモリーや HDD 程度。しかも、シンプルにしか利用できず、マウスのボタンに機能を割り当てるソフトや HDD のバックアップユーティリティなどは使えない。iPhone などのスマホの母艦にもならないし、スキャナーも利用不可だ。

HDMI 端子を使うと、外部ディスプレイへの出力には対応するので、プレゼンには使えるはずだ。だが、例えば USB や Wi-Fi 接続のプロジェクターは利用できない。

おすすめの周辺機器はマウスと USB メモリーだ。



USB 端子などは左右に振り分けている。Windows パソコンとほぼ同様だ。AC 端子はかなり小さいが、抜けてしまうようなことはなかった。



カメラはHD 対応とされている Web チャット用だ。
動作を示す LED は手前に位置しておりあまり見やすくはない。

Acer 製はキーボードに欠点

Acer のパソコンは、キーボード配列に欠点があるものが目立つ。アイソレーションタイプなのでキーボード面に穴が開けてあり、そこに1つひとつのキーが入っている。ところが、ワールドワイドで製品を提供しようとする、国によってキーの配列が違ってくるのだ。国ごとにパーツをすべて作り替えるのがベストだが、格安モデルだとコストに跳ね返ってしまう。

そこで、キーボードの周囲だけ別のパーツにしてはめ込んでいるメーカーが少なくない。パームレストからの一体感が失われるが、キーは最適な配列にできるのだ。

Acer は、パームレストとキーボード部分をあくまでも一体構造にしており、日本語向きではないキーボードの穴に無理矢理キーを押し込んでいるのだ。結果、**BackSpace キーと[¥]キーが密着しているなど、かなりイレギュラーな配置**になっている。

実際にタイピングしてみると、該当のキーを使わない限りさほど問題は感じない。だが、[¥]や括弧キーを頻繁に使うなら、ちょっと打ちづらいと感じるだろう。どちらにしろ、他のパソコンなどには見られないイレギュラーな配列は好ましくない。コストダウンは他社も同様に苦労しているところだが、こんなキー配列は見られない。ぜひとも、普通の配列にしてほしいところだ。

キーの打ち心地は悪くない。定規で測ると 19mm ピッチは確保されているようだ。ストロークが若干浅く、また打ち心地も軽すぎる嫌いがあるが、コストを考慮すれば妥当だろう。



キーボードは独特の配列なのが残念だ。

[Enter]キーの周りなどに無理矢理詰め込んだキーが打ちづらい。

タッチパッドはごく普通だが、ボタンは付いてないタイプ。そもそも Chromebook は右クリックを使わないのでこれで文句なしだ。

バッテリー駆動は十分で起動も早い

バッテリー駆動は、**約 8.5 時間**とされている。実際に使ってみても十分だと感じた。おそらく、**通信をしっぱなしでも 6~7 時間は使える**のだろう。1 日持ち歩いてバッテリー切れに悩まされることはなかった。

僕の普通の使い方では十分だが、出張に持ち出すとなるとまず不足で、AC アダプターが必要になってきそう。ただ、現時点では出張には Windows パソコンを持っていく。あくまで気楽に使うデバイスとしては不満を感じることはなさそう。

CPU は、Celeron 2955U を採用。メモリーを 4GB 搭載していることもあってか、普段の作業ではまったくストレスを感じることがない。遅いパソコンより快適な場面も少なくないほどだ。遅さを感じるのは、CPU よりも通信速度だろう。ひたすら通信に依存するデバイスなので、外出先で通信環境が貧弱だとファイルの読み込みなどでストレスを感じることがあるのだ。

なお、起動、スタンバイからの復帰は動画を用意したので確認してほしい。一般的な Windows パソコンよりもレスポンスが良いのが分かるはずだ。3 万円台でこの軽快さならば確かに素晴らしい。



AC アダプターは携帯ノートとほぼ同様のサイズだ。

起動はかなり早く、満足だ。
スタンバイからの復帰も大満足

セットアップは素晴らしい

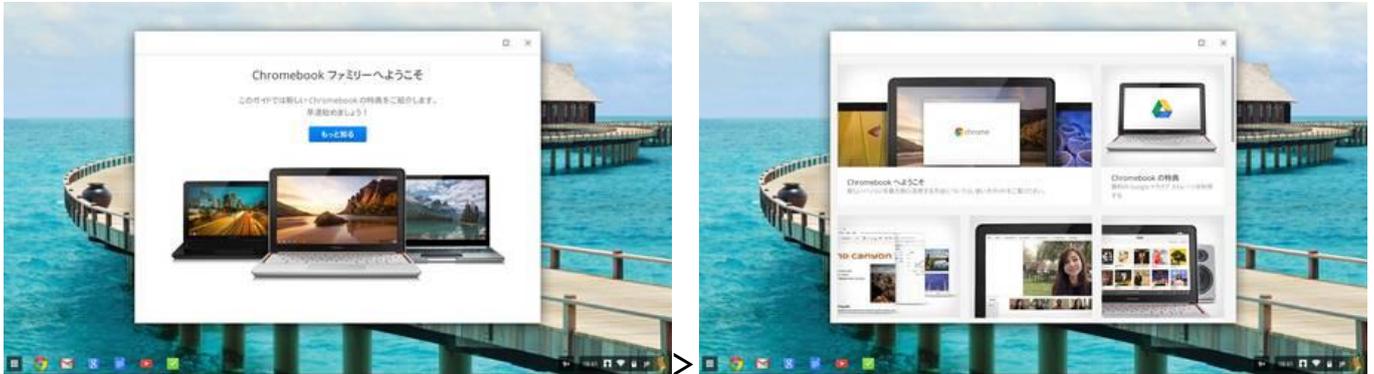
Chromebook のセットアップは非常に優れている。Wi-Fi へのアクセスなどを除けば、Google のアカウントを入力するだけで完了だ。これで、使っているアプリがすべて利用できるようになり、Gmail のアドレスや既存のメール、ブラウザーのお気に入りまですべて従来の環境を引き継いで使えるようになる。

初めて Chromebook を購入したとしても、パソコンで使ってきた各種 Google のサービスはそのまま引き継いで使えるのだ。簡単と言うよりもあっけないほどで、この点が Windows よりもはるかに優れている部分だ。

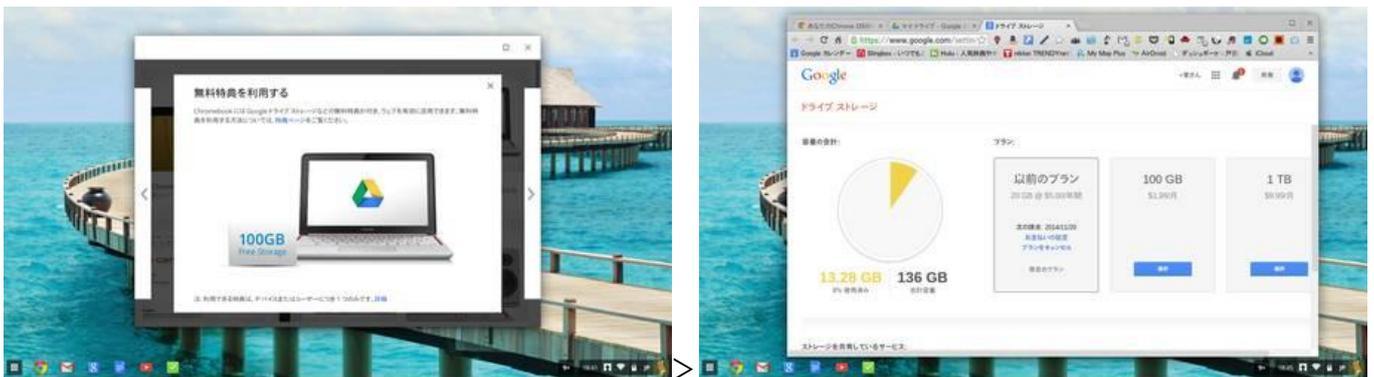
Windows パソコンを買い換えると、ソフトをインストールしたり各種の設定に長い時間が掛かる。最近は Microsoft アカウントの利用で、デバイスが異なっても共通設定される部分も増えている。だが、サードパーティ製のアプリはインストールしなければならないなど、本質的な面倒さは改善されていない。その点、Chromebook は素晴らしい。**購入して 10 分もたたずに自分の環境で使えてしまう**のだ。

この使い方が普及すると、企業や学校では汎用のデバイスを置いておき、Google のアカウントを入れて使い、利用を終えたら消去する使い方もできてしまうだろう。もはや、自分のパソコンというくりもなくなってしまう。さらに、スマホやタブレットまで同じアカウントで、多くのデータや設定を引き継げる未来はそう遠くないところにありそうだ。

なお、今回の利用では Google ドライブの 100GB の無料利用権が付いてきた。期間は 2 年間なので、非常にお得感がある。



セットアップはとても簡単だ。



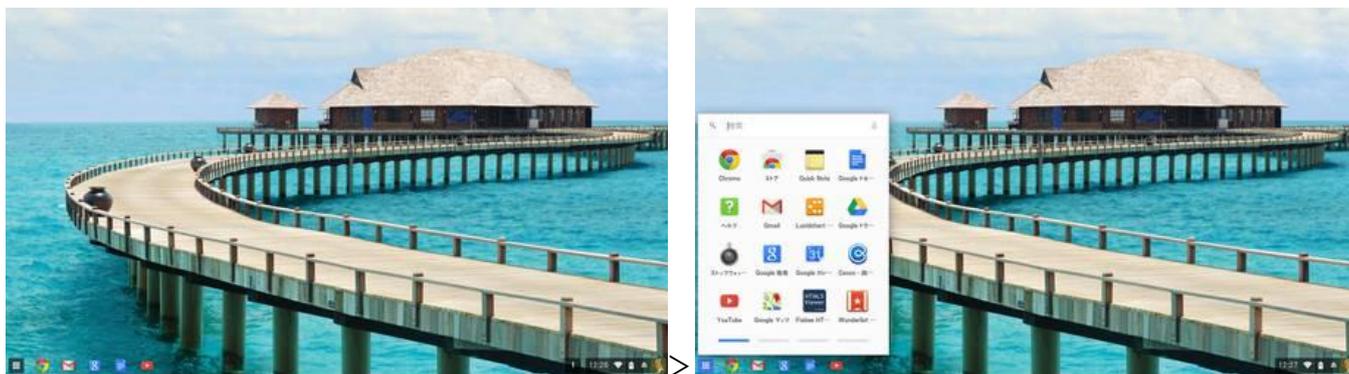
Google ドライブの無料利用権（100GB で 2 年間）が付いてくる。

8 割方は Windows 感覚で使える

Chrome OS を初めて使っても、戸惑うことはあまりないはずだ。基本的な操作は Windows と同様だからだ。左下のスタートメニューからアプリを起動し、ウィンドウはタスクバーで切り替えられる。実際にはスタートメニューの構造が違って、アプリが増えていくとめくっていく方式になる。また、タスクバーも「バー」は表示されないのが、若干異なるのだが、ほとんど感覚で使えてしまう。ちなみにタスクバーのことを Chrome OS では「シェルフ」と呼ぶようだ。

最も異なるのは、右クリックが使えないことだろう。右クリックに相当する作業は指を 2 本タッチパッドに置いた状態でクリックすればよい。ただし、タッチパッドで使えないだけで、マウスを接続すると利用できるようになる。こんな面倒なことをせずに、右クリックは普通に使用できればよいのだが、タッチパッドの製造コストを下げたいのだろうか……。

Windows では、ブラウザーを複数のウィンドウで開きたいときに、スタートメニューで再度アプリを立ち上げる作業をしている人も多いだろう。ところが、Chrome OS ではこれができない。再度起動してもウィンドウが切り替わってアクティブになるだけだ。同様の作業を行いたければ、ブラウザーのタブをデスクトップにドラッグすればよい。



Chrome OS のデスクトップ。

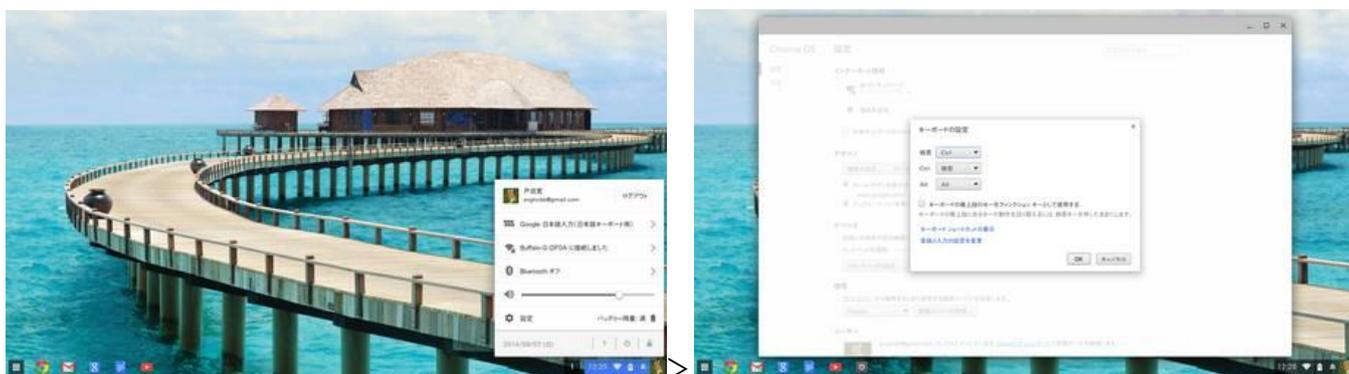
スタートメニューは左下に表示される。アプリが増えるとページをめくるタイプで使いやすいとは言えない。Windows のように階層にしてほしいところだ。

設定はスマホ感覚だ

Chrome OS を使っていると、設定項目がこんなに少なくてよいのかとちょっと驚いてしまう。画面右下の時間などが表示されているエリアをクリックすると、設定画面が表示される。最初のクリックで、日本語入力や Bluetooth のオン/オフなどを設定できる。さらに「設定」をクリックすると、Chrome OS の各種設定が可能だ。タッチパッドの感度やユーザー管理なども、ここからまとめてできる。Windows のコントロールパネルに比べるとあまりにも項目が少ないのだが、特に困ることはない。パソコンというより、スマホの設定画面に近い内容だ。Windows の設定内容は肥大化し過ぎたのではないかと思ってしまうほどだ。

色々と設定項目を見て行くと、数は少ないながら気の利いたものも見つかった。個人的にうれしいのがキーボードの割り当て入れ替えだ。[Ctrl]キーが小指の位置に欲しい人にとっては、思わず膝を打ちたくなる機能だ。

なお、アプリや拡張機能の設定はパソコンからも行える。パソコンのブラウザ Chrome と、Chrome OS のアプリはほとんど同じで、さらに設定も共有しているのだ。



デスクトップ右下から設定が行える。

キーボードの割り当てを入れ替えられるのは秀逸だ。



ハードウェアの設定項目はさほど多くない。
 壁紙の切り替えはデスクトップで右クリック（相当の操作）すればよい。

日本語入力は「Google 日本語入力」を使う

日本語入力システムには「**Google 日本語入力**」を利用する。Android スマートフォンでもおなじみの入力システムで、変換効率はホドホド。仕事で使っていて特に困ることはない。個人的には ATOK が使いたいのだが、将来利用できるようになるのだろうか？ 切り替え機能があるようなので、対応すれば見えそうな予感が大だ。どちらにしろ、入力システムの選択肢は多い方がよいと思う。

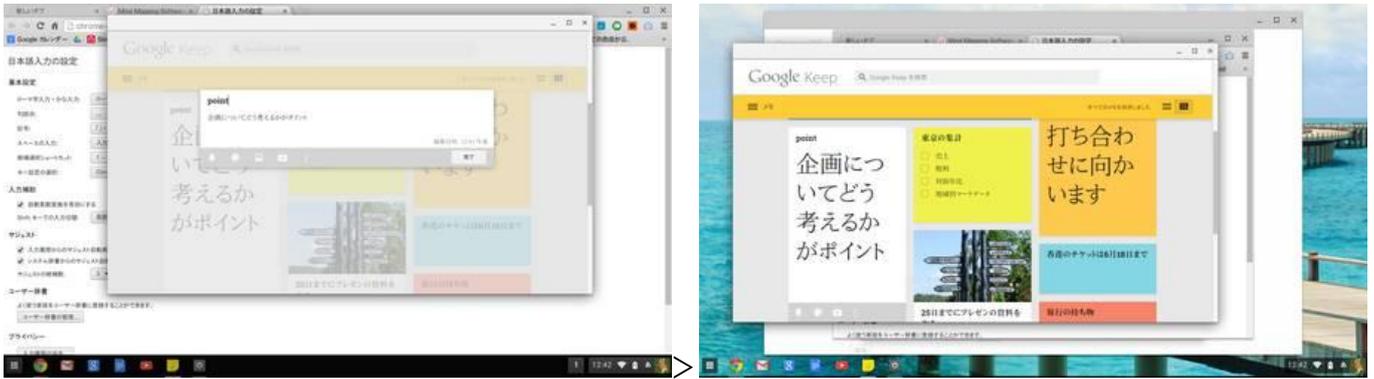
普通にタイピングして入力が遅れるようなことはなく、快適に使える。「ATOK でなければ使い物にならない」というのは、もう昔の話だ。単語登録にももちろん対応しているし、ファンクションキーを使ったカタカナ入力もできる。多くのユーザーは不満を感じることなく利用できるはずだ。



日本語入力には「Google 日本語入力」を利用する。



単語登録もできる。



Google Keep では、メモのタイトルに日本語を入力できない。このような小さなトラブルもまだあるようだ。

オフラインアプリが分かりづらい

ほとんどのアプリは、オンライン前提で利用する。オンラインとは、インターネットにつながっている状態だ。C720 の場合は、SIM を内蔵できないので Wi-Fi で接続している状態ということになる。

例えば、おなじみの Gmail をオフラインで起動しても「アクセスできません」と表示されて一切使えない。インターネットの使える環境ではとても快適だが、接続できないととたんに不自由する。これでは困るので、オフラインで使う専用の Gmail アプリが用意されている。データはそれぞれのアプリで共有されている。オンラインの状態では通常の Gmail を起動して作業していて、オフラインになって「オフライン Gmail」を起動しても、先ほどアクセスしたメールは取り込めるようだ。過去のメールも変わりなく保存されるようなので、特に問題なく使える。

だが、いちいちアプリを起動し直すのが面倒で仕方がないので、一元化してほしいところだ。おそらく、オフライン状態でのメールの量は SSD の残量に依存するのだろうし、オフラインで使えるアプリのインストールも SSD を使うのだろう。これらをユーザーがうまくコントロールできないと、空き容量不足でファイルが持ち歩けないといったジレンマに陥りそうだ。



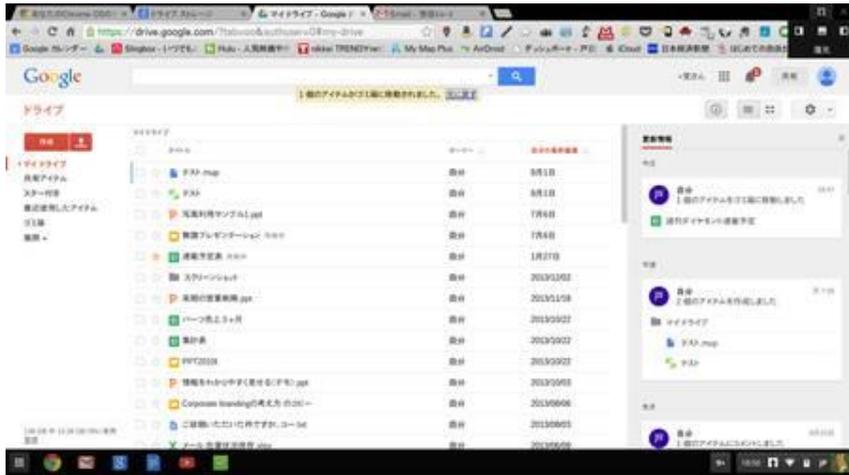
オフライン用の Gmail アプリを使い分けるのが面倒だ。

Google ドキュメントを使うのが基本だが Dropbox など利用できる

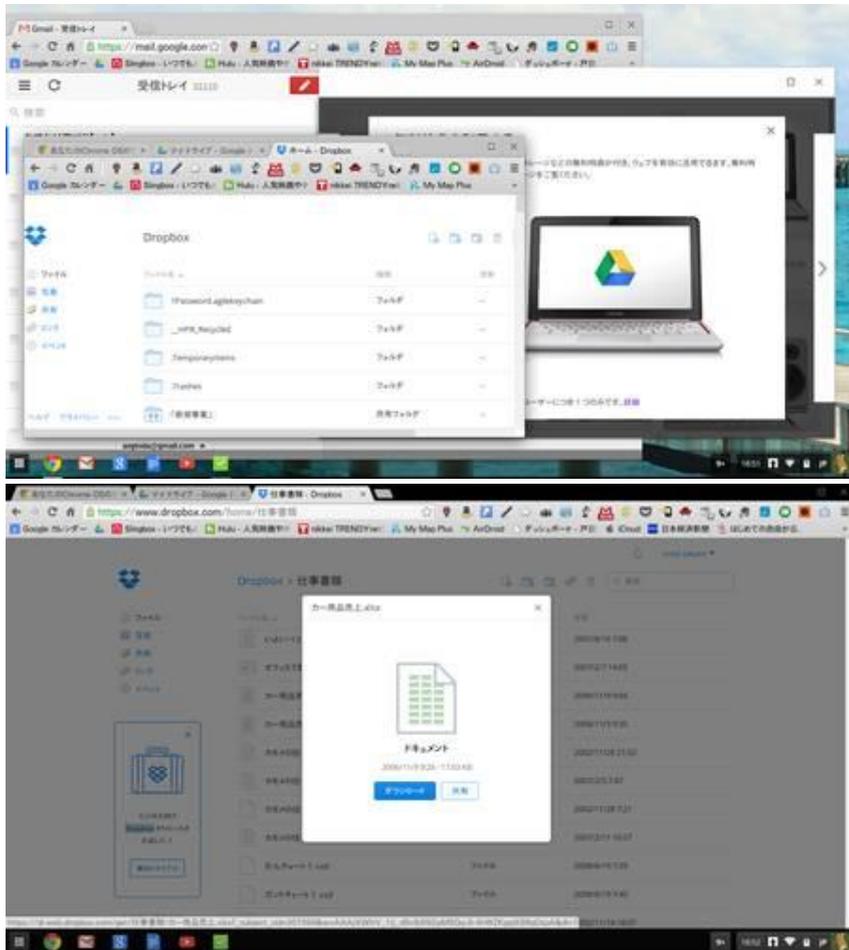
ファイルは、Google ドキュメントを使うのが基本だ。ただし、普段使い慣れているなら Dropbox を利用しても問題なくファイルをダウンロードできる。

ちなみに、ファイルをローカルで持ち歩くためには「ダウンロード」フォルダーに入れておくのが基本だ。ファイル管理のためには「Files」というアプリを利用し、そこに「Google ドライブ」と「ダウンロード」フォルダーが表示される。残念ながら Dropbox フォルダは表示できないのだが、専用のアプリをストアからダウンロードして利用可能だ。Dropbox アプリでファイルをダウンロードすると「ダウンロード」フォルダーに格納できる仕組みだ。

ファイルをアップロードするには、Dropbox のアプリにドラッグすればよい。Windows パソコン同様に使えるので困ることはないだろう。



Google ドキュメントを使うのが基本だ。



Dropbox も利用できるので、使いたいならアプリをインストールしておこう。

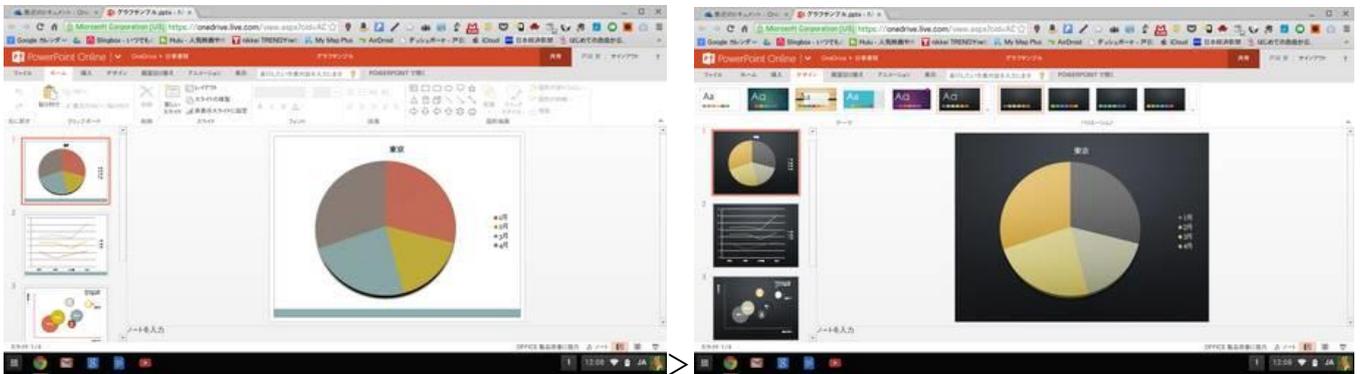
Microsoft Office は純正 Web アプリがおすすめ

そもそも、Google ドライブはオフィス互換のアプリ機能を搭載している。Google ドキュメントや Google スライドなどで Microsoft Office ファイルを開いて編集できるのだ。

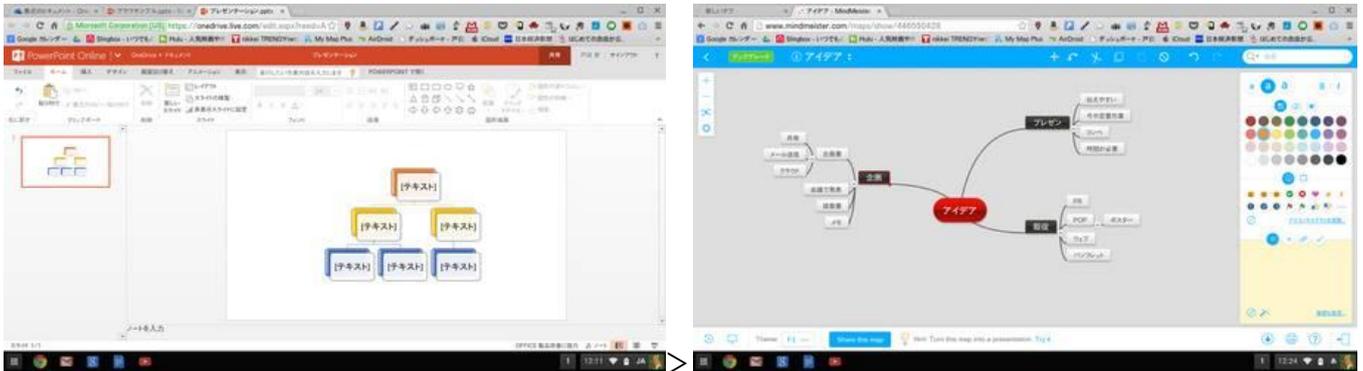
ところが、実は Microsoft も純正のオフィスアプリを Web 対応している。これが実に使い勝手が良いというか、純正だけに機能が分かりやすい。できることは、恐らく Microsoft Office の半分もないのだが、よく使うものはだいたい利用できてしまう。例えば、PowerPoint のスライドにグラフを入れられないなど、不満な部分もあるが、完成しているファイルを扱うには、まあ十分だろう。Google ドキュメントよりも使いやすいことは間違いない。

どちらにしろ、Chrome OS ではアプリの Microsoft Office は動かないので何かを我慢するしかない。そう考えると、マイクロソフト純正の Web 版オフィスがおすすめだ。ところが、問題は Google ドライブと連携できないことだ。あくまでも連携できるのは OneDrive なので、その点の使い勝手がよろしくないのだ。

各社の思惑もあるのだろうが、ユーザー本位で使い勝手を良くしてほしいところだ。



オフィスは、マイクロソフト純正の Web アプリが使いやすい。

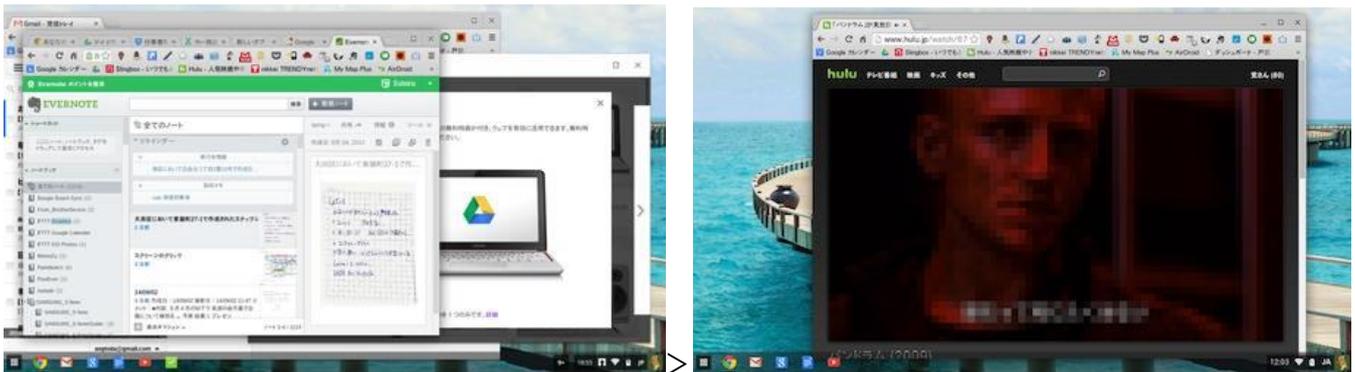


利用できない機能もあるが、図の変更などにも対応するので、感覚的には 7~8 割の作業には対応できると考えてよいだろう。

Hulu やゲームも利用できる

他のアプリも色々試しているが、思ったより色々なことができる。ストアからインストールできるアプリには、なかなか使い勝手が良いものが多い。作図やフローチャート作成アプリなどは使い勝手が良くて驚いた。普段よく利用している Evernote も特に問題なく使えている。できればオフライン Evernote を用意してほしいところだが、さまざまなアプリがオフラインに対応すると、結局、従来のパソコンとの差がなくなり、またストレージが足りなくなる。オンラインで使うのがあくまでも大前提なのだ。

Hulu や Yahoo! のブラウザ上で動くゲームも試してみたが、問題なく使えている。僕が普段愛用していて使えずに困るのは、一太郎や ATOK、iTunes などと、意外に少ないことが分かった。



Evernote は Web アプリとして利用できる。オフラインでは使えないのが残念。

Hulu は普通に利用できた。



Yahoo! のブラウザゲームも試した限りは問題なく使えている。

結論。Windows を脅かすこと間違いなしだ

プリンターは、普段パソコンに接続しているものが Google クラウドプリントに対応しているので、問題なく利用できた。Chromebook から普通に印刷するだけで OK だ。

ただし、他の周辺機器はほぼ全滅だ。冒頭で書いたようにマウスやストレージは利用可能だが、スキャナーは使えないし、iPhone との連携なども不可能だ。例えば、モバイルスキャナーと組み合わせて使えたらとても便利そうなので残念だ。

周辺機器があまり使えないので、トータルで考えるとパソコンの代わりにはならないことが分かる。だが、会社や自宅にメインマシンがあって、モバイル用のセカンドマシンとして買うなら Chromebook で困ることはないだろう。価格の安さやレスポンスの良さを考えても、妥当な選択だ。最近はプリンターなどを使わないケースも増えており、学生などは、十分に使えてしまいそうだ。

当面 Windows に置き換わることはないと思うが、一部が Chromebook に流れる可能性は非常に高い。現状のまま、Windows パソコンが数万円高い状況が続くと、4~5 割は Chromebook に流れてしまうだろう。

だが逆に、もしも Windows が無償化されると、Windows パソコンの価格が下がって Chromebook の優位点はあまりなくなる。結果はどうあれ、我々ユーザーとしては、これまでになく安価なパソコンが使える時期が到来したと考えて良さそうだ。

著者プロフィール

【戸田覚（とださとる）】 ビジネス書作家。株式会社アバンギャルド／株式会社戸田覚事務所 代表取締役。戸田覚塾を主催し、若手物書きの育成にも努めている。ブログ、著書累計 100 冊、連載 25 本。IT 関連、パソコン、プレゼン、企画書、Web ドキュメントなど、仕事に関する幅広い著書を持ち講演も多数。テレビ・ラジオのレギュラー出演も。Facebook: <https://www.facebook.com/toda001>